

エアから、エコ。

Takasago
Green Air®

TAKASAGO Thermal Engineering Co.,Ltd.

第137期 報告書

平成28年4月1日から
平成29年3月31日まで

Contents

トップメッセージ	1
一年間のトピックス	5
News : 100℃以下の低温廃熱を利用可能な コンパクト型高性能蓄熱システムを共同開発 <small>ほか</small>	7
お知らせ : 株主還元について	8
長期経営構想・中期経営計画	9
連結財務諸表	11
会社情報	13
株式情報	14

 高砂熱学工業株式会社

(証券コード : 1969)



ごあいさつ

株主の皆様には、格別のご高配を賜り、心から厚く御礼申し上げます。
ここに、当社第137期事業年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の概況等につきまして、ご報告申し上げます。
株主の皆様におかれましては、今後とも当社の発展にご期待いただき、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長 社長執行役員 **大内 厚**

Q 当期の経営環境についてお聞かせください。

当連結会計年度におけるわが国経済は、全体として緩やかに回復する海外経済や国内の各種政策効果

を背景に、企業収益は改善に足踏みが見られるものの高水準で推移するとともに雇用・所得環境は改善しました。また、設備投資は持ち直しの動きに慎重が見られましたが、国内景気は緩やかな回復基調

を続けました。

当社関連の空調業界におきましては、公共投資、民間設備投資ともに改善が見られました。一方、受注競争の激化等も見られ、工事利益の確保に努力が必要な経営環境となりました。

Q 当期の業績についてお聞かせください。

当社は、平成26年4月から、平成35年の創立100周年に向けた長期経営構想「GReeN PRIDE 100」を開始いたしました。当社グループの目指す姿を、「顧客の期待に応え、信頼・信用され続ける企業グループ」、「グローバル市場で存在感を認められる環境企業」、「地球環境に貢献する環境ソリューションプロフェッショナル」としております。また、その実現に向けた「変革

の基礎づくり」として、第1ステップと位置づけた当連結会計年度までの3か年中期経営計画「iInnovate on 2016」に基づき、「現場力の強化」、「人財育成至上主義」、「安定的な収益確保」を重点取組課題としてグループの総力を挙げて取り組んでまいりました。

これらの結果、中期経営計画最終年度となる当連結会計年度の業績は次のとおりとなり、連結業績目標値として掲げた受注高3,000億円、売上高2,930億円(うち海外500億円)、経常利益100億円に対して、計画策定時に比べ、その後の経営環境が変化したこと、特に海外においては新興国・地域の経済減速等もあり、受注高および売上高は未達となりました。他方、採算性の改善等により、経常利益は目標を1年前倒して達成した前連結会計年度を上回ることとなりました。

社是

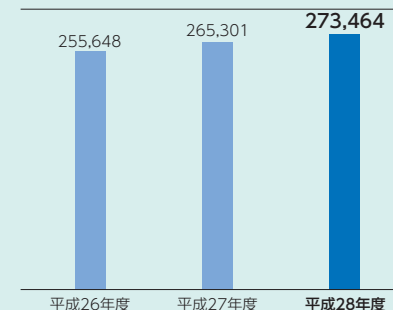
人の和と創意で社会に貢献

経営理念

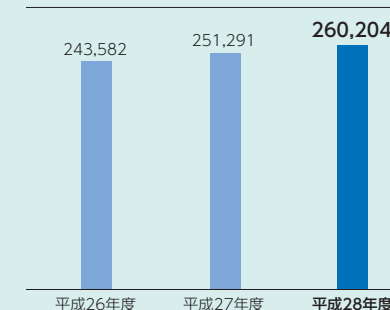
1. 最高の品質創りを重点に社業の発展を図り社会に奉仕する
2. 全員の創意を発揮し顧客のニーズに対応した特色ある技術を開発する
3. 人材育成と人間尊重を基本として人の和と品性を高揚する

連結財務ハイライト

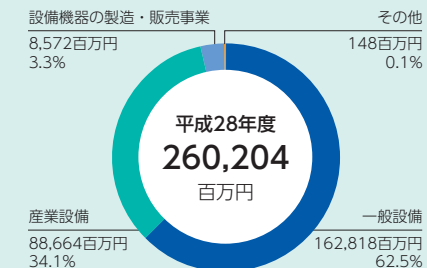
■ 受注高 (単位: 百万円)



■ 売上高 (単位: 百万円)



■ 売上高構成比



受注高

当連結会計年度の受注高は、前連結会計年度を3.1%上回る2,734億64百万円となりました。一般設備は前連結会計年度を2.3%下回る1,681億74百万円、産業設備は前連結会計年度を13.7%上回る972億96百万円となった結果、設備工事業は前連結会計年度を3.0%上回る2,654億71百万円となりました。設備機器の製造・販売事業は、前連結会計年度を4.3%上回る78億45百万円となりました。また、その他は、前連結会計年度を7.3%上回る1億48百万円となりました。

売上高

当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度を3.5%上回る2,602億04百万円となりました。一般

設備は前連結会計年度を3.4%上回る1,628億18百万円、産業設備は前連結会計年度を2.7%上回る886億64百万円となった結果、設備工事業は前連結会計年度を3.1%上回る2,514億83百万円となりました。設備機器の製造・販売事業は、前連結会計年度を17.6%上回る85億72百万円となりました。また、その他は、前連結会計年度を7.3%上回る1億48百万円となりました。

利益

当連結会計年度の利益は、工事の進捗が順調に推移したことに伴い売上高が増加したことおよび採算性が改善したこと等により、営業利益は前連結会計年度を33.3%上回る123億83百万円、経常利益は前連結会計年度を26.7%上回る134億27百万円、

親会社株主に帰属する当期純利益は前連結会計年度を30.3%上回る86億65百万円となりました。

繰越高

当連結会計年度末の繰越高は、前連結会計年度末を6.1%上回る2,315億05百万円となりました。

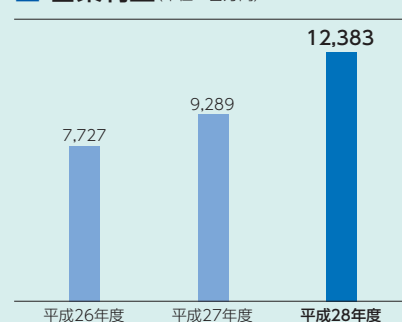
次期の見通しについてお聞かせください。

当社を取り巻く事業環境の今後の見通しにつきましては、アジア地域経済の先行きや英国のEU離脱問題、米国の政策の動向および影響等、海外経済の不確実性の高まりや、金融資本市場の変動の影響など不透明な要因はあるものの、国内景気は緩やかな回復基調を続けるものと思われます。

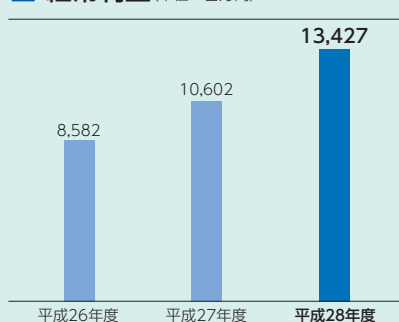
建設業界および当社関連の空調業界におきましては、公共投資は補正予算もあり緩やかに増加することに加え、民間設備投資は企業収益の改善等を背景に、持ち直し傾向で推移することが見込まれます一方、労働需給のひっ迫による影響等、工事利益の確保・改善に必要な経営環境が続くものと思われます。

次期の連結業績見通しにつきましては、売上高2,620億円、営業利益110億円、経常利益120億円、親会社株主に帰属する当期純利益78億円、受注高2,500億円、次期繰越高2,195億円を見込んでおります。また、当社の業績見通しにつきましては、売上高2,020億円、営業利益97億円、経常利益110億円、当期純利益74億円、受注高2,000億円、次期繰越高2,034億円を見込んでおります。

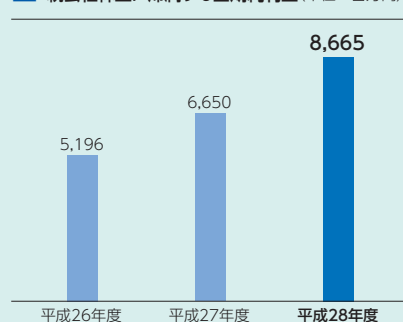
営業利益 (単位：百万円)



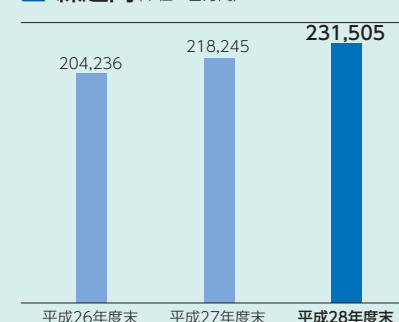
経常利益 (単位：百万円)



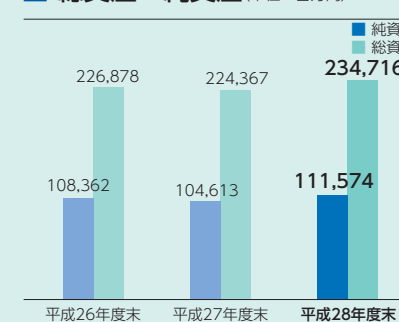
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)



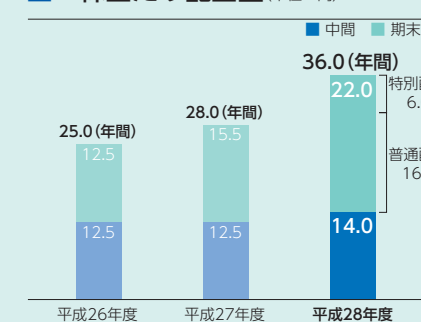
繰越高 (単位：百万円)



総資産・純資産 (単位：百万円)



1株当たり配当金 (単位：円)



TOPICS

ここでは当社の主な出来事やグループの取り組みを写真や画像を中心に紹介します。

5月12日



平成28年3月期決算説明会を開催

6月28日



第136回株主総会を開催

9月1日



日本設備工業(株) 創立50周年記念式典

10月20日



優秀会社表彰・高砂マスター認定式を開催

11月17日



新中期経営計画説明会を開催
▶ P.9-10ご参照

11月18日



グループ技術発表会を開催

平成28年

平成29年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

8月5日

平成29年3月期第1四半期決算発表

11月10日

平成29年3月期第2四半期決算発表

2月9日

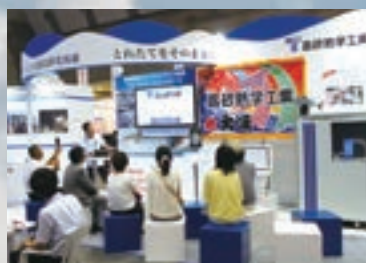
平成29年3月期第3四半期決算発表

5月20日~21日



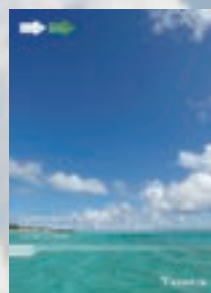
森林保全活動への取り組み
(群馬県伊香保市 高砂熱学の森)

8月17日~19日



第18回ジャパン・インターナショナル・シーフードショーにSIS-HFを出展

8月26日



CSR報告書2016発行

8月31日



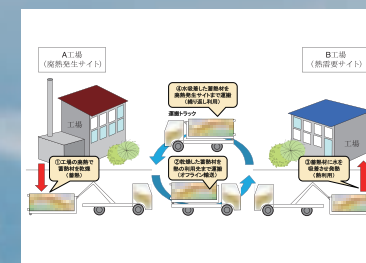
高砂丸誠エンジニアリングサービス(株) 創立50周年記念式典

2月24日~25日



個人投資家向けIRイベント
「東証IRフェスタ2017」に出展

3月13日



コンパクト型高性能蓄熱システムを共同開発
▶ P.7ご参照

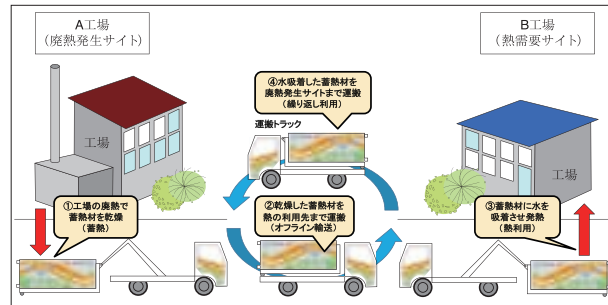
NEWS ① 100℃以下の低温廃熱を利用可能な コンパクト型高性能蓄熱システムを共同開発

NEDOと高砂熱学工業(株)、石原産業(株)、大塚セラミックス(株)、森松工業(株)の4社は、産業技術総合研究所が開発した100℃以下の低温廃熱を利用可能な蓄熱材「ハスクレイ」をベースに、さらに高性能化した蓄熱材の量産製造技術を共同で確立するとともに、日野自動車(株)と同蓄熱材を組み込んだ、従来型より2倍以上の蓄熱を可能とする可搬コンパクト型蓄熱システムを共同で開発しました。

日野自動車(株)工場間におけるオフライン熱輸送の実用化検証試験を開始、今後4社は、この検証試験で得られた知見をもとに、冷房・除湿・暖房、給湯、乾燥工程等へ適用する熱利用システムとして市場展開を目指します。



蓄熱材「ハスクレイ」・蓄熱システム搭載車



NEWS ② スマート空調衛生システム展 「MACS2017」に新工法を出展

最新の空調衛生システムを展示する「MACS2017」に、当社グループの新技术・新工法を出展し、来場したビルオーナーや製造業、施設担当者の方々より多くの反響をいただき、高砂グループの技術力をアピールいたしました。



お知らせ

株主還元について

利益配分に関する基本方針および当期・次期の配当

当社は、株主への利益還元を経営上の最重要課題の一つと位置づけ、収益性と資本効率性を高めつつ、安定した配当を行うことを基本方針として、連結純資産配当率(DOE)2%をベースとして配当を行っております。

また、当社は、配当と自己株式の取得を合わせた総還元の考えを有しており、配当性向を勘案するとともに、大型の資金需要がない場合等は、自己株式取得を含めた総還元性向を意識して、株主還元を推進してまいります。

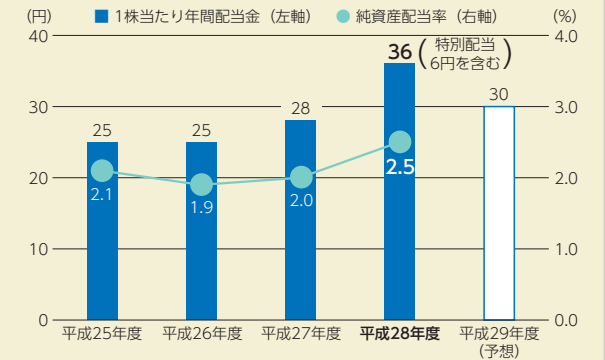
当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当期における当社の期末配当金につきましては、前回予想の普通株式1株につき普通配当14円に2円、および特別配当6円を加えて22円とさせていただきます。中間配当金として、14円をお支払いしておりますので、1株当たり年間配当金は36円となります。

また、次期における当社の配当金は、普通株式1株につき中間・期末ともにそれぞれ15円とし、年間30円を予定しております。

内部留保資金につきましては、当社グループ

配当の推移



	1株当たり年間配当金 (単位:円)	純資産配当率 (単位:%)
平成25年度	25	2.1
平成26年度	25	1.9
平成27年度	28	2.0
平成28年度	36	2.5
平成29年度(予想)	30	—

の持続的な成長および中長期的な企業価値向上を目的として、競争力強化のための技術開発や財務体質強化ならびに事業領域拡大等のための業務・資本提携の原資等とするとともに、株主価値向上を図るため自己株式の取得等について機動的に取り組んでまいります。

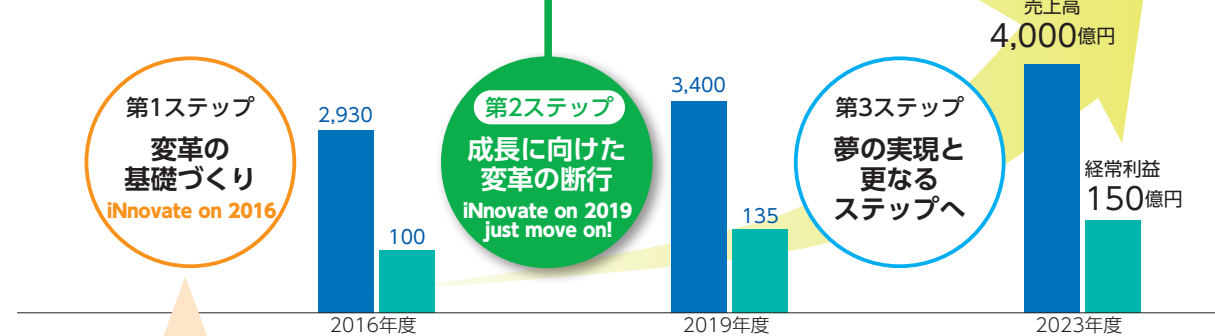
成長への変革を断行する 新3か年中期経営計画 をスタート

創立100周年を迎える
2023年度への長期経営構想

GReen PRIDE 100

- 顧客の期待に応え信頼・信用され続ける企業グループ
- グローバル市場で存在感を認められる環境企業
- 地球環境に貢献する環境ソリューションプロフェッショナル

連結数値目標(単位:億円) ■ 売上高 ■ 経常利益



前中期経営計画のテーマと主な成果

テーマ	主な成果
施工現場力の強化	早期施工計画・業務工程表による現場運営が定着
営業現場力の強化	セールスエンジニアリング活動・CRM活動の展開
人材育成・人事制度の改革	教育施設を活用した現場代理人の育成
新事業領域開発の推進	水産物高鮮度化、低温排熱の蓄熱・搬送技術
国内グループ経営の強化	子会社の統合が完了
グローバル化の推進	メキシコ現法設立、インドICLEAN社との業務資本提携等

新3か年中期経営計画

[iNnovate on 2019 just move on!]

2017年度 ▶ 2019年度

2019年度 連結業績目標

- 売上高 3,400億円
- 経常利益 135億円

基本方針

- 利益重視の徹底
- グループ総合力の発揮

重点課題

- 稼ぐ力の強化
- グループシナジーの発揮
- 国際事業の収益安定化
- 柱となる新事業の構築
- 社員の活力向上
- 業務の革新

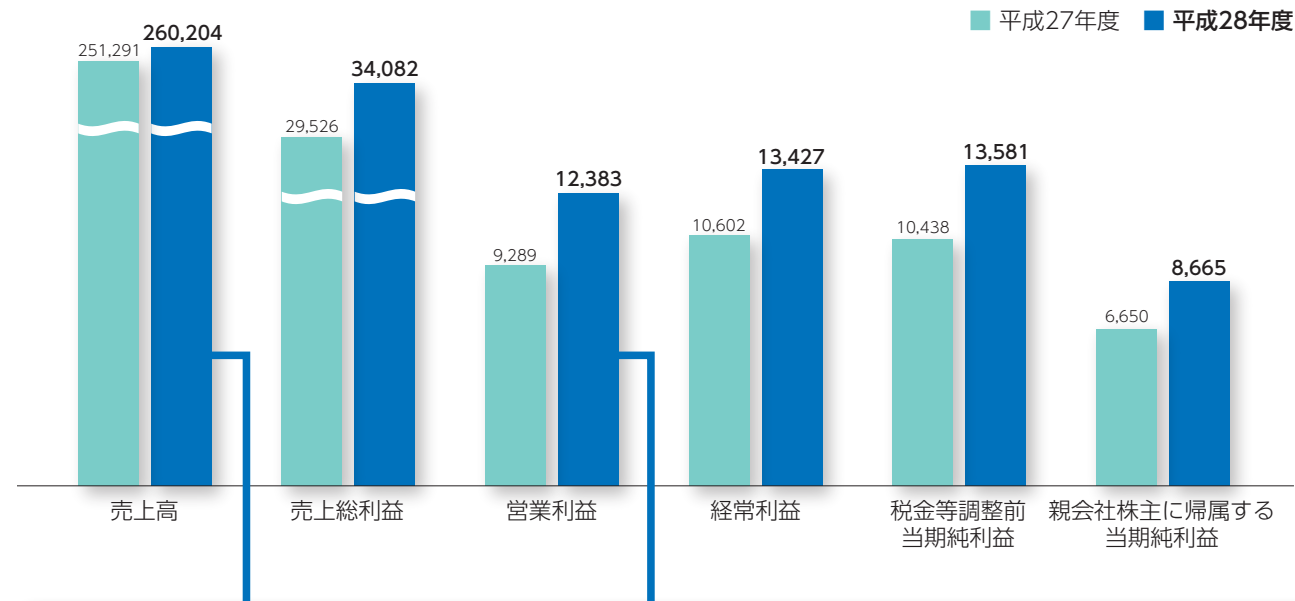
重点取組事項

- 現場力の強靱化
- グループ連携の強化
- 国際事業の再構築
- 非請負・非下請工事業への進出
- 新サービスの創造
- ワークライフバランスを実現する職場環境の構築
- 多様な人材の育成
- 変革への投資と経営基盤の強化(M&A等を含む)

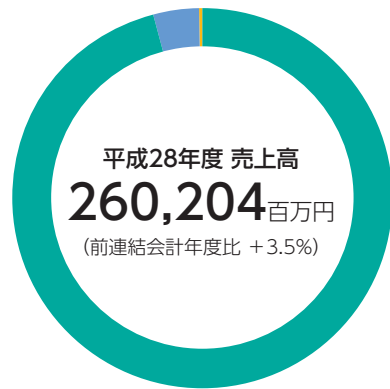
事業別・経営基盤強化の取り組み

高砂熱学工業 単体(国内)	技術力・営業力の強化	
	IT基盤を活用した新サービスの創造	
	新たなビジネスモデルの展開	
海外グループ	国際事業の経営基盤安定化	
	海外における事業領域の拡大	
国内グループ	グループ一体経営の強化	
	グループシナジーを通じた新事業・新商品の創造	
	グループ機能の海外展開	
経営基盤強化	人財	従業員満足度の向上
		グループ総合力強化
IT		業務高度化のためのIT基盤の構築
		新サービス創造のためのIT基盤の構築
組織 仕組み		新事業を生み出す仕組みの構築
		経営管理・現業支援の強化

連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



セグメント別概況



セグメントごとの業績は次のとおりであります(セグメントごとの業績については、セグメント間の内部売上高等を含めて記載しております)。

■ 設備工事業

売上高は前連結会計年度を3.1%上回る2,514億85百万円となり、営業利益(セグメント利益)は前連結会計年度を31.4%上回る116億08百万円となりました。

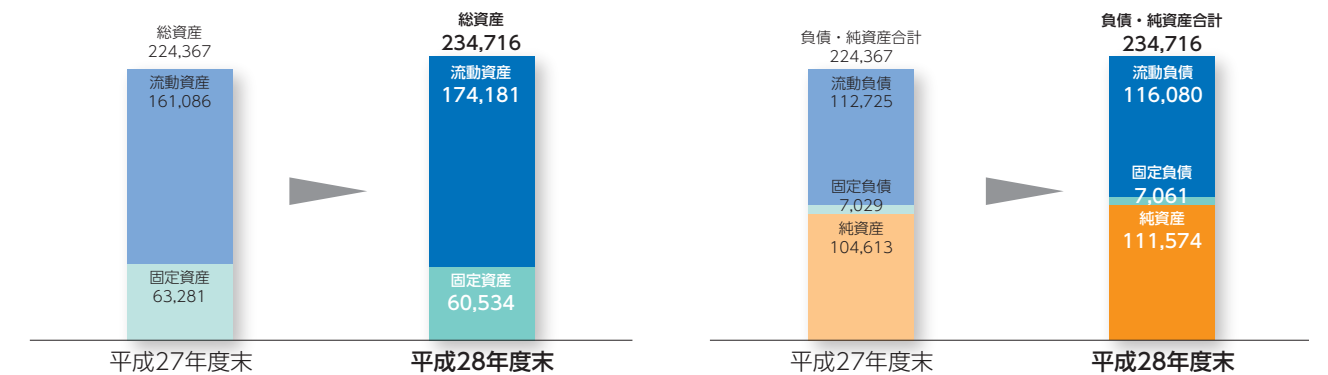
■ 設備機器の製造・販売事業

売上高は前連結会計年度を13.4%上回る103億83百万円となり、営業利益(セグメント利益)は前連結会計年度を49.6%上回る7億21百万円となりました。

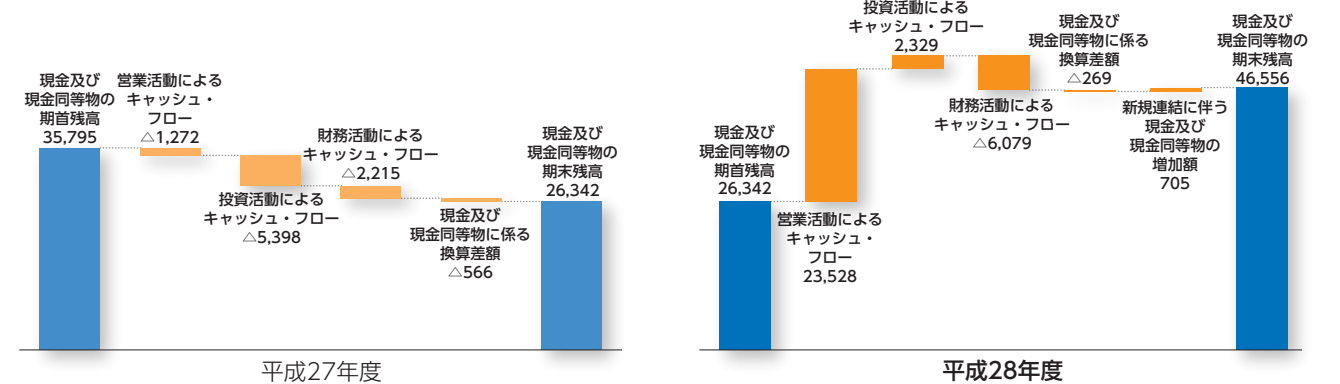
■ その他

売上高は前連結会計年度を5.5%上回る1億58百万円となり、営業利益(セグメント利益)は48百万円(前連結会計年度は11百万円の営業損失)となりました。

資産、負債および純資産の状況 (単位:百万円)



連結キャッシュ・フローの状況 (単位:百万円)



POINT 1

総資産は、現金預金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて103億48百万円増加し、2,347億16百万円となりました。

POINT 2

負債は、未成工事受入金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて33億87百万円増加し、1,231億41百万円となりました。

POINT 3

純資産は、親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて69億61百万円増加し、1,115億74百万円となりました。

POINT 4

営業活動によるキャッシュ・フローは、235億28百万円の収入(前連結会計年度は12億72百万円の支出)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益や売上債権の減少などによるものであります。

POINT 5

投資活動によるキャッシュ・フローは、23億29百万円の収入(前連結会計年度は53億98百万円の支出)となりました。これは主に投資有価証券の売却による収入などによるものであります。

POINT 6

財務活動によるキャッシュ・フローは、60億79百万円の支出(前連結会計年度比△38億63百万円)となりました。これは主に短期借入金の純減および配当金の支払によるものであります。

会社概要

社名
高砂熱学工業株式会社
Takasago Thermal Engineering Co., Ltd.

設立
大正12年(1923年)11月16日

所在地
〒160-0022
東京都新宿区新宿六丁目27番30号

資本金
13,134百万円

従業員数
4,831名(当社 1,950名)

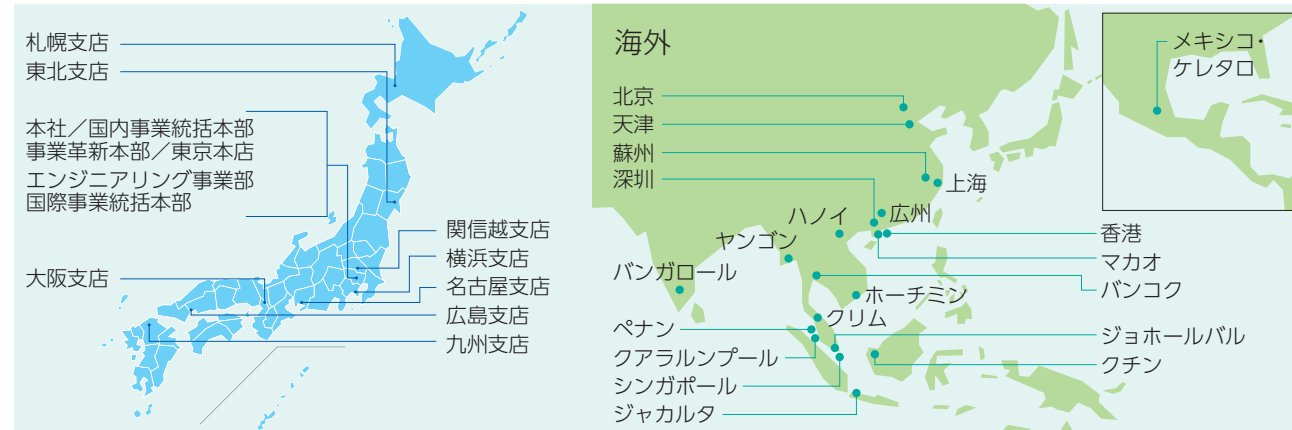
ホームページ
<https://www.tte-net.com>

取締役および監査役 (平成29年6月27日現在)

代表取締役会長 社長執行役員	大内 厚	
代表取締役 専務執行役員	高原 長一	国内事業統括本部長兼品質・環境・安全担当
取締役専務執行役員	松浦 卓也	営業統括
取締役常務執行役員	田淵 潤	国際事業統括本部長兼海外関係会社担当
取締役常務執行役員	原 芳幸	コーポレート本部長兼経営企画部長兼 経営戦略担当兼コンプライアンス担当
取締役常務執行役員	山分 弘史	事業革新本部長兼 事業革新本部イノベーションセンター長兼 イノベーションセンターマーケティング部長兼 技術担当兼新規事業開発担当兼国内関係会社担当
取締役	松永 和夫	
取締役	藪中 三十二	
取締役	内野 州馬	
監査役	山本 幸利	常勤監査役
監査役	近藤 邦弘	常勤監査役
監査役	伊藤 鉄男	弁護士
監査役	瀬山 雅博	
監査役	藤原 万喜夫	

(注) 1. 取締役の松永和夫氏、藪中三十二氏および内野州馬氏は、社外取締役であります。
2. 監査役の伊藤鉄男氏、瀬山雅博氏および藤原万喜夫氏は、社外監査役であります。
3. 上記社外取締役3氏および社外監査役3氏は、東京証券取引所の定める独立役員に指定され、届出がなされています。

主要な拠点



大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本生命保険(株)	4,560	6.17
第一生命保険(株)	4,231	5.73
高砂熱学従業員持株会	3,585	4.85
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	2,755	3.73
(株)三菱東京UFJ銀行	2,346	3.17
高砂共栄会	2,264	3.06
(株)みずほ銀行	2,177	2.94
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	2,155	2.91
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	1,232	1.66
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	1,134	1.53

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(8,952千株)を控除して計算しております。
3. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会の議決権・期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日

株主名簿管理人
〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

郵便物送付先
[お問い合わせ先]
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (通話料無料)
取次事務は三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店で行っております。

単元株式数 100株
公告方法 電子公告により当社ホームページに掲載 <https://www.tte-net.com>
ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載

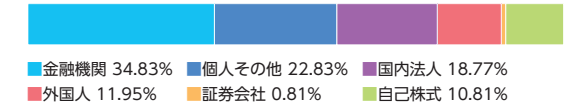
配当金計算書について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告の際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告の際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願い申し上げます。

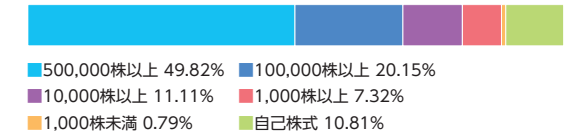
株式の状況

発行可能株式総数 200,000,000株
発行済株式の総数 73,813,508株
(自己株式 8,952,260株を除く)
株主数 5,812名
(前事業年度末比 159名減)

所有者別株式分布



所有数別株式分布



株式に関するお問い合わせ

- 届出住所等のご変更
- 配当金の受領方法・振込先のご変更
- 単元未満株式の買取のご請求

口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。

- 特別口座に関するご照会
- 郵送物の発送と返戻に関するご照会
- 支払期間経過後の配当金に関するご照会
- その他株式事務に関する一般的なご照会

三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部まで
お問い合わせください。
☎ 0120-232-711
(平日午前9時～午後5時)

INFORMATION | インフォメーション

当社は、すべてのステークホルダーの皆様に対し、企業活動に関する重要な情報や投資判断に影響を与える情報を適時適切に開示し、社会に信頼される企業を目指しています。

ホームページのご紹介



当社は、ホームページを重要な情報発信源の一つと認識しており、決算情報のみならず皆様のご理解に資すると判断した情報は、随時ホームページに掲載しております。ぜひ、ご活用ください。

<https://www.tte-net.com>

主な掲載コンテンツ

- IR情報
- 技術・製品情報
- CSR情報
- 会社情報
- 採用情報

高砂熱学



IRカレンダー



	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
決算発表		● 期末決算発表			● 第1四半期決算発表			● 第2四半期決算発表			● 第3四半期決算発表		
株主総会		● 招集通知発送				● 定時株主総会開催							
配当基準日						● 中間配当株主確定				● 期末配当株主確定			
有価証券報告書 四半期報告書		● 有価証券報告書発行				● 第1四半期報告書発行			● 第2四半期報告書発行			● 第3四半期報告書発行	
株主向け報告書		● 株主向け報告書(期末)発送								● 株主向け報告書(中間期)発送			
統合報告書						● 統合報告書発行							



高砂熱学工業株式会社
Takasago Thermal Engineering Co., Ltd.

〒160-0022 東京都新宿区新宿六丁目27番30号
電話 03(6369)8212(代表)
<https://www.tte-net.com>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

